

資料館だより

第 47 号

平成19年（2007）

10月15日発行

編集・発行 市立歴史民俗資料館 〒208-0004 東京都武蔵村山市本町5-21-1 TEL 042(560)6620
ホームページアドレス <http://www.city.musashimurayama.tokyo.jp/shiryoukan.html>



「東航正門跡」碑



「搖籃之地」碑

「東京陸軍少年飛行兵学校跡地」を市文化財（旧跡）に指定！

平成19年7月10日、武蔵村山市教育委員会は市の文化財に東京陸軍少年飛行兵学校跡地を、旧跡として指定しました。

東京陸軍航空学校（後に東京陸軍少年飛行兵学校と改称）は、昭和12年（1937）に開設された航空兵の養成学校で、現在の武蔵村山市大南三・四丁目近辺に所在していました。

その建物は現存していませんが、教育委員会では市内に軍事施設が存在したことを後世に伝え、

世界恒久平和を祈るために、その記憶をとどめる二つの石碑建立地を市指定文化財としました。

この二つの石碑はいずれも大南三丁目にあり、かつて少年飛行兵学校の正門があった付近（大南3-138）に建てられている石碑には「東航正門跡」と刻まれ、学校跡地の一画（大南3-29-6）の石碑には「搖籃之地」と刻まれています。

（搖籃-ゆりかご。物事の発展する初め。物事の発展をはぐくんだ時期や場所）

「東京陸軍少年飛行兵学校」について

＜東京陸軍航空学校の設立＞

昭和20年（1945）8月14日、太平洋戦争の渦中^{かちゅう}にあった当時の日本政府はイギリス・アメリカ・中国の三カ国の連名^{れんめい}で出された降伏勧告^{こうふくかんこく}、いわゆるポツダム宣言を受諾し、翌15日正午には昭和天皇による終戦を告げるラジオ放送（玉音放送^{ぎょくおん}）がなされました。

この終戦から62年の歳月が過ぎ、戦争を経験していない世代が圧倒的多数になってしまいました。このような時代だからこそ、“戦争”について語り継ぎ、“戦争とは何であるのか”を伝えて行かなければなりません。

武蔵村山市にも戦争の記憶を受け継ぐ資料が残っています。立川市砂川町に「東航通り」という名称の道路があることを御存知でしょうか。「東航」とはかつて武蔵村山市域に存在した「東京陸軍航空学校」の略称で、この通りは学校正門に向かう道でした。

次に東京陸軍航空学校について説明します。大正3～7年（1914～18）の第一次世界大戦では戦車や航空機といったそれまでの戦争にはなかった兵器が登場したことから、旧日本軍においても飛行兵の養成は急務となっていました。一方で、優秀な技術を持った下士官^{かしかん}を養成するための少年兵制度が昭和8年（1933）に設けられ、少年兵教育が旧日本陸軍の教育機関である諸学校で実施されはじめました。

そして昭和9年（1934）には所沢陸軍飛行学校に少年航空兵の一期生が入校し、昭和12年（1937）10月には熊谷陸軍飛行学校（昭和10年7月開設）内に東京陸軍航空学校が開設されました。

ただしこれは仮設のもので、翌13年（1938）8月に村山村中藤に新校舎が完成し、同年9月に学校は村山村に移転してきました。この敷地は立川飛行第五連隊^{しやばくじょう}の射爆場として買収された土地でしたが、同連隊は千葉県に移駐したため、学校用地に転用することになったものです。ここが現在の大南三・四丁目近辺になります。

学校の応募資格は尋常小学校卒業以上の学力を有する満15歳から17歳までの者とされていました。午前中には国語・数学や兵器学などの授業が行なわれ、午後は軍事教練^{きぎょうれん}などを行なう術課^{じゆつか}と体操の授業があり、これら一年間の課程が修了すると、操縦^{そうじゆう}・整備・通信の各分野に分かれた二年間の上級教育に進み

ました。

また現在の大南二丁目周辺ではグライダーの演習をおこなう場所があり、中隊によってはプライマリー（初級）グライダーを使った滑空訓練^{かっくう}も行われました。

＜学校名の改称から現在まで＞

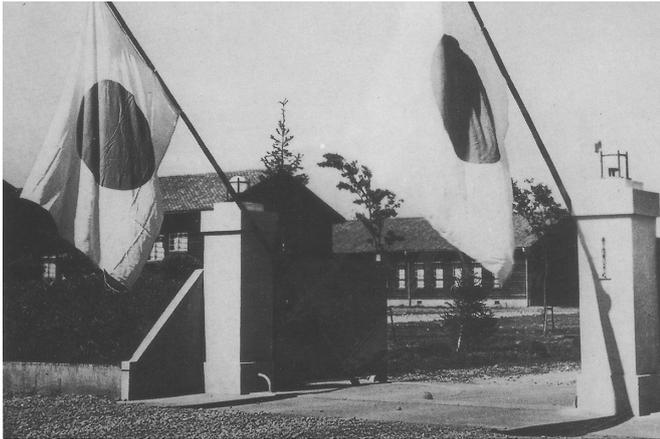
昭和16年（1941）に日本海軍が、ハワイ沖のアメリカ太平洋艦隊^{かんたい}を攻撃した真珠湾攻撃^{しんじゆわん}を機に太平洋戦争が勃発しました。そして昭和18年（1943）3月に陸軍少年飛行兵学校令が公布され、東京陸軍航空学校は名称を東京陸軍少年飛行兵学校と改めました。この改称は、以前の校名が「少年飛行兵となるものを始めて養成するのであるといふ点に明確を欠く」（「朝日新聞」昭和18年3月29日）という観点から行われたものでしたが、太平洋戦争が激化^{げきか}する中で、陸軍航空機部隊の戦力充実をはかる目的も強うかがうことができます。

しかし戦争の劣勢化^{れつせい}に伴い、授業時間は減少し、防空壕掘りなどに動員されたりするようになります。昭和20年4月には、当時の村山国民学校（現・市立第一小学校）に「将来的に空襲被害で、校舎が使えなくなったら、村山国民学校をかわりの校舎として貸して欲しい」という申し入れもしており、学校側も戦局の悪化を感じていたようです。

東京陸軍少年飛行兵学校は太平洋戦争が終戦となった年の11月26日、陸軍少年飛行兵学校令の廃止を受けて廃校となりますが、既に生徒たちは終戦直後の復員命令によって、徒歩で立川駅に向かうなどして、帰郷^{ききやう}の途についたようです。

少年飛行兵学校の跡地は、終戦直後に、食糧難に備えるため畑・保安林・採草地という地目で中藤地区の農家等に分割して払い下げられました。その後、村山町が住宅建設を働きかけた結果、昭和41年（1966）、この地に学校跡地の一部を含んで都営住宅村山団地が誕生することとなりました。

こうして武蔵村山市に存在した少年飛行兵学校は姿を消しましたが、前述の通り「東航通り」という道路名にその名を止めたほか、昭和38年（1963）には慰霊碑^{いれいひ}が建立され、また慰霊碑が禅昌寺^{ぜんしやうじ}へ移転した後には記念碑も建立され、今もなおその記憶を止めています。



東京陸軍少年飛行兵学校正門



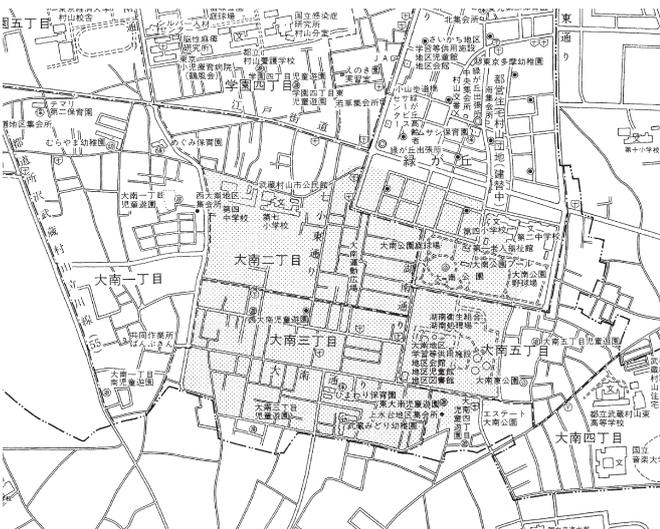
東京陸軍少年飛行兵学校全景



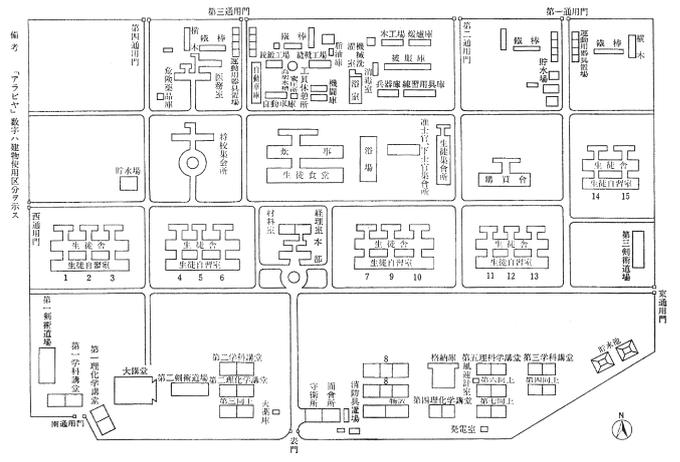
第一剣術道場の基礎部分
(平成5年撮影、現存せず)



東通用門柱と雄鵬神社碑
(禅昌寺境内、門柱のみ現存)



↑網付の部分が東京陸軍少年飛行兵学校の跡地
(「武蔵村山市白図〈平成16年調製〉」を使用)



東京陸軍少年飛行兵学校配置図
(「陸軍少年飛行兵学校史」から転写)

- 〈参考文献〉
- ・国史大事典編集委員会『国史大事典 第十四巻』(吉川弘文館 1993)
 - ・榎崎由美「武蔵村山にあった軍事施設-今も残る敷地を歩きながら-」『多摩のあゆみ 第119号』(財団法人たましん地域文化財団 2005)
 - ・武蔵村山市史編さん委員会『武蔵村山市史 下巻』(武蔵村山市 2003)
 - ・少飛会歴史編纂委員会『陸軍少年飛行兵史』(少飛会 1983)



東京陸軍少年飛行兵学校跡地（昭和22年撮影）

資料館利用状況（平成18年度）

月	開館日数 (日)	利用者数 (人)	市 内		市 外	
			人 数(人)	割 合(%)	人 数(人)	割 合(%)
4	28	1,161 (41)	378 (41)	32.6 (100.0)	783 (0)	67.4 (0.0)
5	29	1,186 (163)	321 (93)	27.1 (57.1)	865 (70)	72.9 (42.9)
6	25	1,038 (110)	405 (39)	39.0 (35.5)	633 (71)	61.0 (64.5)
7	29	934 (42)	347 (42)	37.2 (100.0)	587 (0)	62.8 (0.0)
8	29	997 (0)	320 (0)	32.1 (0.0)	677 (0)	67.9 (0.0)
9	28	854 (15)	275 (8)	32.2 (53.3)	579 (7)	67.8 (46.7)
10	29	3,350 (248)	1,294 (62)	38.6 (25.0)	2,056 (186)	61.4 (75.0)
11	28	1,291 (243)	579 (227)	44.8 (93.4)	712 (16)	55.2 (6.6)
12	25	977 (275)	418 (178)	42.8 (64.7)	559 (97)	57.2 (35.3)
1	27	872 (46)	390 (46)	44.7 (100.0)	482 (0)	55.3 (0.0)
2	26	1,475 (249)	584 (210)	39.6 (84.3)	891 (39)	60.4 (15.7)
3	29	3,298 (247)	639 (143)	19.4 (57.9)	2,659 (104)	80.6 (42.1)
合計	332	17,433 (1,679)	5,950 (1,089)	34.1 (64.9)	11,483 (590)	65.9 (35.1)

※ 利用者（入館者）には団体を含み、（ ）内は団体の内数

◆事業予定◆ 10月20日(土)から12月9日(日)までの間、東京都無形文化財指定40周年を記念して、村山大島紬の歴史と技法を紹介する、特別展「村山大島紬」を開催します。
また関連事業として市内三ツ木の田房染織有限会社のご協力をいただき、村山大島紬の工房を訪ねる文化財見学会も10月20日(土)に開催いたします。